

メッセージ題「顔と顔を合わせて」 <先週の講壇より>

「そこでヤコブは、その所の名をペヌエルと呼んだ。『私は顔と顔を合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた。』という意味である。」創世記 32:30【新改訳】

「ペヌエル」というのは、「神の御顔」という意味です。ヤコブはあの兄エサウとの20年ぶりの再会を前に、一人で時を過ごそうとしていたのでしょう。そんな時、神の人は現れ、取っ組み合いをするという、実に不思議な経験をする事となります。それはまるでレスリングのような柔道のようなことをイメージするのですが、要するにこれは神様とガッツリと取り組む時を持ったということ。私たちにそれを適応するならば、必死の祈りの時を持ったという言い方をすることが出来るでしょう。そこでヤコブは不安や恐怖に勝利し、神と共に生きる者へと変えられ、兄のもとへと向かって行くことが出来るようになったのでした。

ピンチがチャンス、とはよく聞く言葉です。でもそれは自然にそうになっていく、というものではなく、神様と取り組んだ者に与えられるものだ、この個所からそのように思われるものです。



オレンジ郡教会 牧師 榊原のぶ

《 主 の 祈 り 》

天にまします我らの父よ。願わくは御名を崇めさせ給え。御国を来たらせ給え。みこころの天になるごとく、地にもなさせ給え。我らの日用の糧を今日も与え給え。我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるし給え。我らを試みに会わず、悪より救い出し給え。国と力と栄とは、限りなく汝のものなればなり。アーメン

《 使 徒 信 条 》

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府に下り、三日目に死人の内よりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座し給えり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを裁き給わん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、体のよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

2021年10月3日

オレンジ郡 キリスト教会

礼拝：9時半～
聖書の学び：11時～



榊原のぶゆき牧師

(714) 827 - 6244 nobu@occc.org

4872 Bishop St, Cypress, CA 90630

Facebook: オレンジ郡キリスト教会

ホームページ: www.occc.org



【教会年間聖句】

「あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」

ピリピ2：15

☆集会案内☆

日曜礼拝 : 09:30-10:40
ブレイク : 10:45-11:00
バイスタ : 11:00-12:00
みふみ会 : (水) 10:00-
定例祈祷会 : (水) 18:30-

